

教育委員会が事務局

茨木市は教育委員会が事務局となって茨木市人権センター・3人の事業担当者・地域協議会を中心に事業をすすめています。月に1回の担当者会議を開き情報交換や事例交流・啓発、周知の方法を思案しています。

私はその3人の中のひとりで週4日は地域協議会嘱託員、1日は進路選択担当者という勤務形態です。最初の年は「進路選択支援連絡会議（沢良宜）」の立ち上げや奨学金説明会の開催、制度の学習に追われました。

奨学金説明会では参加された方に“奨学金情報を自宅へ直接、郵送で届ける”ことを約束し登録して頂くことをお願いしています。そして登録の後、こちらから電話連絡をし進路希望や経済状態を、お話を聞ける範囲で尋ねます。そこから個別面談につないで継続的に相談が受けられるようにしています。1対1での面談は相談者の方も安心感を持ち気持ちが解けてほぐれ深いところまでお話ししていただけることが多いです。

毎週1日（火曜日）は夜の時間帯に相談日として勤務し申請時期には「個別相談会」と称して土曜日や夜の時間帯に相談日を設けています。

相談のほとんどがひとり親家庭のお母さん

この間の相談には

- 中学校時代、不登校であった。どんな高校へ進学できるのか。
- 公的な奨学金しか借り入れできない事情がある。

- 保護者と子どもと姓が違う。親権者は元夫である。奨学金申請用紙の記入はどのようにすればよいか。

- 他府県の私立高校に進学後に授業料軽減制度を知った。中学3年生の時に知っていれば大阪府内の私学に進学していた。今からはどうすることもできない。こんなに学費がかかるとは思っていなかった。

- 高校3年生の秋に専門学校進学が決まり130万円用意しないといけない。どうすればよいか。

- 奨学金や減免制度を利用することが恥ずかしい。

- 学校に家庭事情・経済状態を知られたくない。

- 子どもが心の病気にかかって入院している。退院後の学校生活に不安がある。

- 奨学金の第1回目の入金日が学校への納入期日に間に合わない。

- パート労働をしているが手続きなどで仕事を休めない。休むと職を失う。

- 年金に加入したことがない。

- 養育費はもらっていない。そういう話をするのもいやだった。早く離婚したかった。

- 事業の失敗・借金・失業。

など、ほとんどがひとり親家庭のお母さんの相談です。年収約150万円の家庭の子どもが公立高校へ進学できる学力があるのに私学の学費の金額を確かめずに大学受験に有利であるからと安易に私立高校専願を希望という事例も数件ありました。進学・進路にあたり必要な学資・奨学金・進学先の学校情報が子どもや保護者に届いていないと痛感します。

また経済的に困難な状態であるのに制度を利用することが特別なことである、恥ずかしい等の誤った理解があったり、授業料減免制度のしおりが難解であり手続きの煩雑さに制度を利用する事を諦めてしまっているお話も聞きました。

ひとり親家庭のお母さんがひとりで、もがき苦しんでいます。学校側の課題としては奨学金担当者が毎年変わる所があったり、担当者や学校によって制度理解や周知の方法に温度差が生じています。

もう少し風通しのよい関係に

いつからか学校側に家庭事情が伝わらなくなり、保護者の方も伝えなくなり、もしかして、より厳しい状態のところは特に学校への敷居が高くなって、ひとりで悩みを抱えることが多くなったのではないのでしょうか。もう少し風通しのよい関係になりませんか？その風に進路選択支援事業の担当者になることはできませんか？

この間担当者になっていろんな出会いがありました。制度の理解に不安を持ち「こんな書類来ただけかわかれへんわ」といつも連絡をくれるお母さん、登録者のニュースが郵便で届くと「橋本さ

んからやと思うと封筒を見ただけで安心します」と言ってくれるお母さん、子どもが高校・大学へ合格したとき電話をくれたお母さん、私も自分の子どもが合格したような気持ちになり一緒に喜びました。またそのお母さんたちを通していっぱい子どもの夢に出会いました。

サッカー選手のスポーツトレーナー・メイクアップアーティスト・声優・ダンサー・障がい児施設での就労・福祉関係の仕事・ホテルでの仕事。また大人の夢にも出会いました。看護師をめざし看護学校に行かれている方・小学校教師の夢をもう一度追いかける方。しかしその一方で経済的な理由で専門学校を休学した子ども・専門学科の私立高校を断念し違う方向へ進んだ子どもたちもいます。

『相談を受ける1番バッター』を

担当者としては『相談を受ける1番バッター』を目標に、奨学金制度の周知・利用に公平性や平等が伴うように、そして子どもたちや保護者がひとりでも希望を失うことがないようにという願いを込めて、『生きていくことの応援団』のひとりでありたいと思っています。

相談件数・相談形態（茨木市全体）

	2003年度	2004年度
対面	158	218
家庭訪問	54	60
電話	92	291
手紙・Mail	0	25
その他	63	15
計	367件	609件

